

校内研修研究授業記録簿

期 日	平成27年度 10月 14日(木) 14:00～16:40
記録者	渡邊晶子
欠席者	なし
研究授業	授業者 知花 健太郎教諭 指導 八重山教育事務所 仲地みゆき指導主事 場所 中1・2年教室 教科 道徳 主題名 「自分の生き方を考える」 内容項目 1ー(5) 向上心、個性の伸長 教材名:「自分を見つめ個性を伸ばす」(出典 私たちの道徳 中学校 文部科学省)
1. 授業者反省 ・前向きな気持ちを持ってほしいという願いをこめた。準備をしたが、想いを伝えることは難しい。指導案の内容は削ってしまったが、「自分らしさ」「本時のまとめ」は外せなかった。 2 質問 ・机がなかったのはなぜか。 →小人数の良さを生かすため、空間を狭めて生徒同士近い位置で授業をしたかった。 - また、移動する場面があった為、邪魔にならないように配慮した。 ・付箋紙を背中に貼ったのはなぜか。 →盛り上げて意見が出やすい雰囲気にしたかった。 ・授業の展開で山場はどこだったのか。 →中心発問「あなたの自分らしさは？」以降の場面。 3 ワークショップ(グループは別紙参照) ・教師の想いが伝わる授業だった ・中心発問が明確であったので、筋の通った展開になった。 ・学習規律、LTWがよく身についていた。 ・導入がコンパクト ・欠席者への配慮が行き届いていた。 ・クイズ形式の発問など生徒を惹きつける工夫がなされていた。 ・生徒の書く時間がよく確保されている。 ・構造的な板書、生徒と一緒に作り上げている板書であった。 課題 ・教師の誘導、発問からの答えを教師自身が行ってしまうことがあったので、生徒の想いが発表される場がほしい。 ・生徒の言葉遣いへの指導が必要。 ・生徒同士が関わる時間をもっとつくりたい。 ・生徒が発表したことから展開したい。 ・リフレーミングの配布のタイミング。・デジタルタイマーなどでの時間の把握。 ・見て分かる形でLTWの確認を。 ・手紙をもらっていない生徒への配慮がほしい。	

4 指導助言

資料①「道徳に係る小・中学校学習指導要領一部改正ポイント」

②「平成27年度 石垣市立富野小中学校 校内研修授業研究会 道徳」

- ・生徒たちが堂々としていた。昨年または一学期から変容が見られる
- ・授業全体に教師の生徒への愛情が込められ、応援の気持ちが生徒に伝わる雰囲気がある。
- ・教師の受容の姿勢、言葉の丁寧さから、授業の土台や生徒の姿勢もつくられている。
- ・指導案は細部まで工夫され、熱意が伝わる。前回からの資料分析の学びも出来ている。
- ・効果的な指導をねらいとした年間指導計画の変更がなされ、道徳の時間を要とした教育活動が展開されていることが窺える。→次年度、参考にして整理する。
- ・子ども達の関わりから、この時間が補充、進化、統合なのかを明確にすること。

(補充、進化、統合の言い方も変わりますのでご確認を)

- ・先生方のチームワークの良さが子どもたちにも反映していた。

視点 **資料** **発問** **板書** **LTW** に関して

資料→愛情のこもった資料であった。但しねらいを達成する、また展開の山場に時間をかける為に、資料は精選していく必要がある。

発問→適切であった。生徒たち同士の関わり、自分の言葉で考える時間を取れば尚良い。

板書→生徒と作り上げる板書の工夫がある。もう少し時間をかければさらに踏み込んだ「まとめ」も生徒から出たのではないか。

LTW→しっかりと指導されている。しかし、生徒の言葉遣いを指導し直す必要がある。段階を踏んで指導すること。

道徳指導に関して ※「道徳に係る小・中学校学習指導要領一部改正ポイント」参照

- ・「第3章特別の教科道徳の第2に示す内容の学年段階・学校段階の一覧」を参照し、指導案への表記も変更すること。
- ・ソーシャルスキル、モラルスキルトレーニングなど指導方法にも言及されていることに注意する。
- ・評価について、改訂後の「学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握」することを取り入れる。
(数値化しない。)
- ・道徳の教科化にあたって「考え、議論する」道徳への展開を目指し現行の道徳をしっかりとやってほしい。
- ・今から選考実施をしても良い。新しい指導要領に基づいて取り入れても良い。

5 最後に 校長先生より

- ・指導案には指導者の思いを。
- ・子ども達の変容がみえる授業展開を。
- ・資料を精選すること。
- ・子ども同士のかかわり、言葉を大切にすること。
- ・子どもたちを受容すること。